

不妊治療クリニックにおける抗加齢医療に対する意識調査

○友崎 薫¹、橋本 知子¹、中岡 義晴¹、森本 義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック、²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【背景・目的】

社会的背景により平均初婚年齢が上昇している。不妊は加齢と相関し配偶子の質の低下や量の減少がもたらされ男女ともに妊孕性が低下することが知られている。ストレスや肥満、高血糖、喫煙などの生活習慣も妊孕性や周産期への悪影響が明らかになっている。当院では不妊治療に加え統合医療システムを構築しカウンセリングや食事指導、運動指導、鍼灸などの抗加齢医療を実践している。加齢による妊孕性低下を止めることは困難であるが抗加齢医療によりストレス低減や生活習慣改善し妊孕性低下をできる限り緩やかにさせ、周産期リスク低減と出産後の母児健康までを目的としている。しかし統合医療を提案されても受けるに至らない患者も多く、その目的が正しく理解されていない可能性が考えられる。そこで当院通院中の患者が抗加齢医療にたいしてどのような意識を持っているかを調査した。

【方法・対象】

2018 年 11 月に当院通院中の患者 150 名に処置室でアンケート用紙を配布。回答の提出を以て本研究参加に同意された女性患者 53 名（平均年齢 37±10.8）のアンケート結果を集計した。

【結果】

当院での抗加齢医療の認知度は 3.6%であった。抗加齢医療が当院では統合医療でカウンセリングや食事指導、運動指導、鍼灸などであると明かした上で抗加齢医療が不妊治療に役立つと思うかとの質問には 94%が役立つと思う 6%でわからないと回答し効果がないと考えるものはいなかった。現に統合医療として抗加齢医療を受けているものは 10%、受けてみたいと回答したものは 45%、内容によるは 35%、どちらでもないは 5%で受けたくないは 0%であった。

【考察】

当院で行われている統合医療が抗加齢医療であるとの認識は低い。抗加齢医療が当院では統合医療として行われていることを知った後の回答では不妊治療に役立つと思うと回答する患者が大部分である。当院では統合医療が抗加齢医療であり、それらは妊孕性低下を緩やかにする効果が期待でき周産期リスクの低減や出産後の母児の健康にも有効であることを周知する工夫が必要である。